



第33回工大祭 Freedom

新センター発足(地域安全安心センター/組込みシステム開発研修センター)

一番町ロビー 1F ギャラリー リニューアル

第23回対北海道工業大学総合定期戦

高等学校との連携(高大接続研究事業/出前授業)

学外で学ぶ(インターンシップ/教育実習)

国際交流シリーズ ㊸

就職 現状報告

先生のホンネ(2)

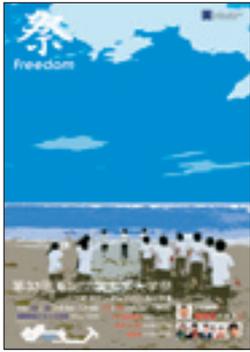
ウェルネスセンターから



創造から統合へー仙台からの発進

東北工業大学

<http://www.tohtech.ac.jp/>



ポスターデザイン 須貝 慎太郎
すかい しんたろう
(デザイン工学科3年)

10月17日(金) スポーツ大会
バスケットボール、ソフトボール、ミニサッカー、
ドッジボール、バレーボール
10月18日(土) 工大祭
10月19日(日) 工大祭
学科企画、オープンキャンパス、ビンゴ大会、
ダンスコンテスト、合気道演舞、〇×大会、
トークライブフリーダム(学長と学生の対談)、
林家久蔵師匠落語寄席、メイクアップボックス、
お笑いライブ「髭男爵、我が家、みっちー」
こどもジャングル、FRB 合同ライブ、屋台、
フリーマーケット、サークル展示、後夜祭

写真撮影協力：写真部

柴田 洸佑 (建築学科2年)
しばた こうすけ
小南 耕平 (建築学科3年)
こみなみ こうへい

工大祭を振り返って

大学祭実行委員長

阿部 秀悦 (建設システム工学科3年)
あべ しゅうえつ



第33回工大祭「Freedom」、皆様のおかげで無事成功することができました。

我々、実行委員は丸となって、工大祭成功のために全力を尽くし、力をあわせてこの1年間頑張ってきました。実行委員と協力していただいた皆様で作りに上げた工大祭は私の最高の思い出です。

工大祭にご協力していただいた方々に実行委員一同、心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

〇 野外特別企画

野外特別企画長

野崎 怜子 (建築学科3年)
のざき れいこ

毎年恒例となりました「林家久蔵師匠落語寄席」は、今年もたくさんのお客様がご来場くださり、大盛況でした。メイクアップボックス、フリーマーケットも例年に増して大好評でした。年配の方からお子様まで、幅広い方々に来ていただきました。



〇 ステージ企画

ステージ企画長

阿部 裕貴 (建設システム工学科3年)
あべ ゆうき

今年のステージは「Freedom」のテーマの下、〇×大会など新しい企画や学長と学生代表が語り合うトークライブ・フリーダムを行ない、去年はもちろん例年以上の集客、盛り上がりを見せ、大成功を収めることができました。



〇 幼稚園企画

幼稚園企画長

大場 由莉絵 (デザイン工学科3年)
おおば ゆりえ

今年は、こどもジャングルというテーマを掲げ、それに沿った企画物を制作しました。それぞれ個人の仕事もある中、限られた時間でよく頑張ってくれたと思います。おかげで本当に素晴らしいものが出来、例年以上に盛り上がりました。



クリエイティブデザイン学科企画 「真剣工大しゃべり場」

クリエイティブデザイン学科とデザイン工学科の学生及び卒業生が、「良いデザインとは？」をテーマに熱いトークバトルを行ないました。



環境情報工学科企画 模擬店

合言葉は「地産地消」。全具材が宮城県産の豚汁、伊豆沼産ブラックバスのガーリックフライは大好評でした。割箸も国産間伐材製にこだわりました。



知能エレクトロニクス学科企画 「国際交流ベトナム屋台」 小林研究室

ベトナムからの留学生チツくんを中心とした小林研究室の学生が、前日からほとんど寝ずに準備をしました。香辛料を少なめに日本人向けにアレンジしたフォー(うどん)、大学祭の期間中巻き続けた揚げ春巻きと生春巻きは、どれもおいしく好評でした。2日分が1日でなくなり、慌てて2日目の仕込みをするというハプニングもありましたが、チツくんは「疲れたけれど、とてもおもしろい」と話していました。





○コンサート企画

コンサート企画長

高橋 真生人 (情報通信工学科3年)

たかはし まきと

今年は、事前に工大生にゲストライブについてのアンケートを実施し、本番に反映させました。本番では、サイン抽選会と記念撮影を行ない、ゲストライブでは最高の盛り上がりを見せ、1千人近くの集客に成功しました。



○学科企画

一般企画長

中軽米 和人 (電子工学科3年)

なかかるまい かずと

今年は様々な学科企画を行ない、例年とは異なるオープンキャンパスの同時開催が行なわれました。例年以上に来場者も増え、より一層の盛り上がりが見られました。



建築学科企画「colors workshop 2008」

カラージュークショップ代表

佐藤 溪 (建築学科3年)

さとう けい

今年も建築学科企画「colors workshop 2008」が開催されました。今年は、建築家であり、東京工業大学教授の坂本一成(さかもとかずなり)氏、他4名の講師を招き講演会も行なわれました。即日住宅設計をテーマに、1日目は作業を進め、2日目は参加者の作品による展覧会を行ないました。優秀作品7点でプレゼンテーションを行ない、参加者、講師の間で、白熱した議論が展開されました。



スポーツ大会を終えて

スポーツ大会会長

船山 瑞希 (デザイン工学科3年)

ふなやま みずき



今年のスポーツ大会は10月17日(金)に行なわれました。バスケットボール、ソフトボール、ミニサッカー、ドッジボール、バレーボールの5種目を行ない、396名の工大生が参加しました。晴天に恵まれ、順調に大会を運営することができました。参加していただいた選手の方々が楽しそうに競技をしていたので、運営側として、大変良い大会になったのではないかと思います。是非、来年も多くの工大生が参加することを楽しみにしています。



○後夜祭企画

後夜祭司会

高橋 信行 (建設システム工学科3年)

たかはし のぶゆき

今年の後夜祭には約700人の方々に来場していただきました。後夜祭としては珍しくお子様にも参加していただくことができ、まさにテーマの「Freedom」にふさわしいものとなりました。



学生と教職員との協力で

学生部次長 片山 文雄

かたやま ふみお

10月18日(土)・19日(日)、第33回工大祭「Freedom」が八木山キャンパスで行なわれました。天候にも恵まれ、ゲストの知名度が高かったこともあり、例年以上の来場者を得て大盛況でした。ご協力・ご来場いただいた皆様に感謝申し上げます。

今年には教職員の大学祭への関わりが増えました。これまで「学科企画」として展示や講演会、研究室開放などを行なっていましたが、今年は正式のオープンキャンパスを同時開催。教職員は忙しくなり、全体の管理も複雑になりましたが、在校生や高校生の来場の増加につながり活気を生んだ一因となりました。学生主体で運営されている大学祭に、教職員がどのように関わるか。本格的な議論の時期かもしれません。

(共通教育センター教職課程部 准教授)

オープンキャンパス & 学科企画

クリエイティブデザイン学科



施設、パネル、作品の見学だけでなく、入試に関しても熱心に質問が交わされていました。

安全安心生活デザイン学科



LOHAS 協議会と秋保工芸の里のご協力により『本物で暮らす』を紹介。独楽の絵図けを体験。

経営コミュニケーション学科



MC学科主催の『英語コンテスト』に、2日間で83名の参加者がいました。

知能エレクトロニクス学科



パネル展示と、学科名物「金のしおり」作りなどが行なわれ、大変好評でした。



情報通信工学科



一般の人には分かりにくい情報通信技術を一生懸命説明する学生の姿が印象的でした。

建築学科



4年生の卒業設計を中心に、数多くの設計製図・模型を展示しました。多くの高校生が熱心に見学していました。

建設システム工学科



「入学から卒業までの学習」と「卒業生の活躍状況」を模型・パネルで紹介。好評でした。

環境情報工学科



「環境情報」を化学的・工学的に「はかる」方法を紹介し、実際に体験していただきました。

後援会による大学見学会

10月18日(土)・19日(日)に、第33回工大祭に合わせて後援会各支部から八木山キャンパスの大学見学会が行なわれました。初日は青森・岩手・秋田・福島・新潟県支部から貸切りバスや乗用車で、2日目は山形県支部から貸切りバスで、総勢約230名のご父母や支部役員の方が訪れました。

各学科紹介コーナー・こどもジャングル・工大落語寄席・野外企画・館内企画などの見学を行ない、展示担当の学生たちの活発な作品説明や研究活動をする姿を見ていただきました。

また、支部によっては長町キャンパス見学や、一番町ロビー見学を行ないました。

(後援会事務局)



八木山キャンパス見学 (青森支部の皆さん)



一番町ロビー見学 (山形支部の皆さん)

第23回 対北海道工業大学総合定期戦

大会及び成績等について

学生部次長 船木 尚己
ふなき なおき

第23回対北海道工業大学総合定期戦が8月26日(火)、27日(水)の両日、東北工業大学八木山・長町両キャンパスと青葉山グラウンドを会場に行なわれました。

本学からは300名の学生と70名の指導者・教職員が参加しました。定期戦前日までの長雨が嘘のようにあがり、まずまずの大会日和となりました。それぞれの種目で優勝を賭けた熱戦が展開され、総合優勝の行方は最後までもつれ込みました。最終的には7勝6敗と、僅差ではありましたが本学が優勝し、久しぶりの優勝旗を勝ち取ることができました。来年は北海道での開催となりますが、優勝旗を持ち帰って来られるよう各クラブの頑張りを期待したいと思います。(建築学科 講師)

戦績表

種目	東北工業大学	北海道工業大学
サッカー	◎ 6	— 3
ラグビーフットボール	◎ 44	— 10
ソフトテニス	◎ 3	— 2
硬式テニス	◎ 3	— 2
バスケットボール	61	— 81 ◎
剣道 (内容勝ち)	◎ 3	— (1引分) 3
柔道	0	— (2引分) 5 ◎
アメリカンフットボール	7	— 21 ◎
バレーボール	◎ 3	— 0
ハンドボール	◎ 27	— 25
弓道	73	— 101 ◎
バドミントン	2	— 3 ◎
卓球	2	— 3 ◎
総合成績	7勝	6勝



総合定期戦を終えて



実行委員長
(学友会課外活動連合委員会事務局長)

青柳 秀明 (電子工学科3年)
あおやぎ しゅうめい

私は今回の総合定期戦に実行委員長として参加しました。今回は各試合、接戦の末に7勝6敗で見事総合優勝を飾ることができました。これは、今まで練習を重ねてきた選手の皆さん、そして、役員の方々が一丸となって取り組んだ結果だと思えます。また、両大学の選手の皆さんは前日の雨雲を吹き飛ばすようなはつらつとしたプレーをしていました。

最後に定期戦が末永く続き、両大学の親睦が更に深まることを願っています。

学友会学部学生会会長



久慈 高義 (電子工学科3年)
くじ たかよし

今年の総合定期戦は7勝6敗で接戦の末、東北工業大学が総合優勝旗を手にすることができました。両大学の選手とも全身全霊でプレーしており、今までにないくらい白熱した試合だったと思います。選手は今回の定期戦で課題が見えたと思いますので今後の活動に役立てましょう。

また、この様に充実した定期戦を開催することが出来たのも運営委員並びに実行委員の皆様のご尽力の賜物です。今後も両大学の絆が深まることを願っています。

第34回 対千葉工業大学 硬式野球部定期戦

硬式野球部マネージャー 建築学科2年 宍戸 瞳
ししど ひとみ

8月10日(日)、千葉工業大学野球場を会場に定期戦が行なわれました。初回に2点を先取し、2回に1点を追加しました。2回裏・5回裏に四球・適時打などにより3点を返されましたが、8回一死より、星拓磨君(環境情報工学科4年)・佐々木英哲君(環境情報工学科1年)・佐藤奨一君(建設システム工学科3年)による三連続二塁打で2点をあげ、5対3で勝利しました。

この定期戦は、両校が全国大会出場を機に始まったもので、今年で34回となります。定期戦と一緒に開催されている懇親会の最後に、今日までの伝統をベースに今後ますますの両大学の交流と発展と飛躍を誓い、エールを交換し定期戦を終えました。



新センター発足 地域安全安心センター

安全安心生活デザイン学科

地域との連携活動

地域安全安心センター長

田中 礼治
たなか れいじ



地域安全安心センターは、安全安心生活デザイン学科が、地域社会の抱えるさまざまな課題を多角的視点から支援し解決を図っていく組織として、7月10日(木)に開所式を行ない、活動を始めました。

地域安全安心センターは、東北工業大学と学外(地域)を結ぶ活動をしております(図1)。センターには人材育成部門・社会貢献部門があり、センターの役割は、住みよいまちづくりのための『心』を大切にされた教育や研究を行なうことです。現在の活動内容は、地域の方々とワークショップや生活習慣病予防教室を開いたり、報告会「中国四川大地震の被害原因を探る」の開催などです。

本センターの活動は高く評価され第二回日本耐震グランプリにおいて内閣総理大臣賞を受賞しました。

(安全安心生活デザイン学科 教授)

問合せ・連絡先

佐藤憲夫 022-304-5704

nsato@tohotech.ac.jp



図1 地域安全安心センターの関係図



表彰状



地域の方と学生のワークショップ風景



生活習慣病予防教室

『中国四川大地震の被害原因を探る』報告会

9月4日(木)戦災復興記念館で「中国四川大地震の被害を探る」報告会が開催され、60名余りの参加がありました。

はじめに、遼寧工程技術大学の崔正龍講師から被害調査報告があり、続いて地域安全安心センター長の田中礼治教授が被害原因の分析をいたしました。参加者は、多くの建物が倒壊した原因を知り、地震の恐ろしさを再認識した様子でした。



中国四川大地震の被害状況

組み込みシステム開発研修センター

組み込みシステム開発研修センター 発足しました

組み込みシステム開発研修センター長

畑岡 信夫
はたおか のぶお



知能エレクトロニクス学科と情報通信工学科が連携して、21世紀の人材育成と研究開発を目指した新しいセンターが活動を開始しました。

センター設立の目的は、①組み込みソフトウェアを経験した人材の育成と②講義及び研究と連携した実践実習を可能とする「ネットワークコントロールラボラトリ」の整備です。この目的を実現するために、組み込みソフトウェアの研修・実習と組み込みシステム関連研究の実施という「教育と研究の2本柱」による取り組みを実施します。研究分野としては、ロボットと音声・メディア処理、および無線・センサーネットワークなどを対象としています。

8月1日(金)に開催されました開所式では、岩崎俊一理事長と沢田康次学長のご挨拶の後に、中野正志元経済産業副大臣と伊藤克彦宮城県副知事、及び藤本章仙台市経済局長からご祝辞をいただき、私がセンター設立趣旨の説明を行ないました。その後、北海道大学大学院情報科学研究科副研究科長の宮永喜一教授と株式会社日立製作所中央研究所情報システム研究センター長の鈴木教洋氏の2名による基調講演がありました。開所式には、学外100名(報道関係者3名含む)と学内200名の計約300名が参加され、盛大に開所式を行なうことができました。関係各位に感謝いたします。

将来的には次世代ICT(*)分野での高度技術者育成を目指す大学院を構築したいと計画しています。なお、組み込みシステム開発研修センターでは、産学官連携を旗印にしています。研究分野に関して、ご興味のある企業の方々の見学、意見交換、産学官連携研究実施等には積極的に対応いたします。

* ICTとはInformation and Communication Technologyの略です。

(知能エレクトロニクス学科 教授)

知能エレクトロニクス学科・情報通信工学科

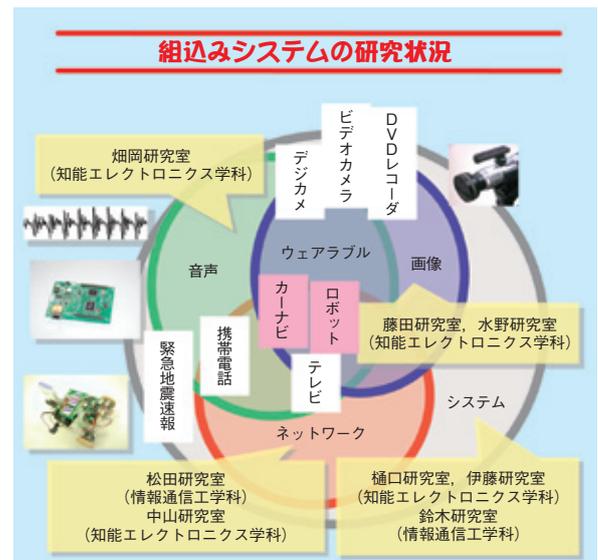
問合せ・連絡先

知能エレクトロニクス学科 畑岡 信夫 hataoka@tohotech.ac.jp
情報通信工学科 松田 勝敬 mmatsuda@tohotech.ac.jp

◆研究紹介

組み込みシステムの三大要素である音声、画像、ネットワーク(+ウェアラブル)に関して重点的に研究を推進しています。

応用は、ユビキタス情報化時代を牽引するロボット、カーエレクトロニクス、携帯電話、介護福祉を取り上げ積極的に展開しています。



センター内の様子



開所式



センターでの講義

一番町ロビー

■1Fギャラリー リニューアルオープン

多くの市民との協働と地域貢献の交流の場を目指して

一番町ロビー運営委員長 菊地 良覺
きくち りょうかく

多くの市民の方々に親しまれる“まちの中の大学”を目指して開設された一番町ロビーは、この10月で6年目を迎えました。来館者数は累計で5万1千人を超え、着実に多くの市民に利用されてきています。今年度の最重要課題

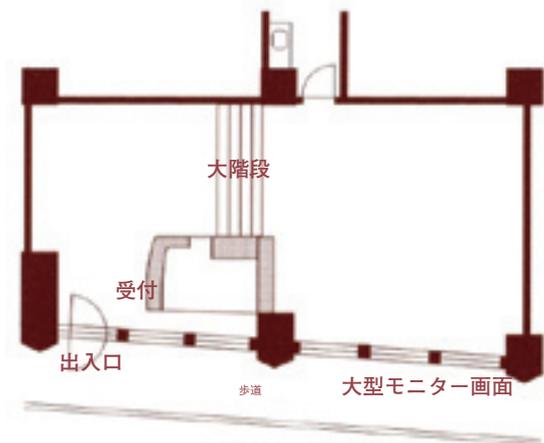
とした1階ギャラリーのリニューアルが実現されました。新たな空間は、これまで以上に展示物や来訪者との距離が短くなり、魅力ある姿となっています。

今後は、本学とより多くの市民・企業・諸団体等との多角的な協働企画を目指し、存在感あるロビーにしていきたいと思います。皆様の積極的な参画を期待しています。

(安全安心生活デザイン学科 准教授)

● 改装のポイント

- ① 大階段を設け、ライン型照明の配置とし、空間の連続性を強調
- ② 展示物にはスポット照明を配置
- ③ 来訪者とのやり取りをやすくするために、受付案内は入り口側に配置
- ④ 大型モニター画面（既存品）を付設し、通行者への動画による情報提供
- ⑤ 本学ISO認定を視野に入れ、既存家具を積極的に再利用



9/1 (月) 改装オープニングセレモニー
長谷川三郎宮城県美術館長・岩崎俊一理事長・
沢田康次学長・矢吹隆志工大高校長



出入口から見た展示空間
9/1(月)～9/17(水) 200回記念展示「まちなか美術館」
※宮城県美術館所蔵の作品展示

● 改装後の展示企画など



9/19(金)～9/24(水)
「巨大ダンボールロボット」
共催：宮城県塩釜高等学校



9/20(土)・9/21(日)
「巨大ダンボールロボット」関連企画
親子模型工作教室



9/26(金)～10/1(水)
「シロのちクロ、ときどきグレイ展」
デザイン工学科4年 荒井研究室有志

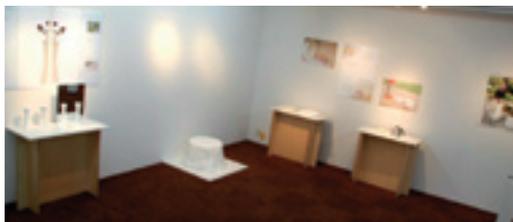
■1Fギャラリー

10/3(金)～10/8(水) 軽く住むプロジェクト

デザイン工学科 梅田研究室



梅田弘樹准教授と梅田研究室の学生



展示作品

デザイン工学科4年 伊藤 茉莉
いとう まり

梅田研究室の「軽く住む」展にご協力頂いた方々、また、お越しくださった方々に感謝申し上げます。

今回のように、ひとつのテーマのもとに各自が展開した研修の途中経過を、展覧会として公開するという事は、梅田研究室にとって初めての試みでした。

各自のアイデアをかたちにしながら、展覧会としても統一感のとれたものにする為に、何度も試行錯誤し、また、協力しあいながら、なんとか完成までたどりつくことができました。

この展覧会を通し、ご覧になって下さった方々に、私たちのメッセージ「こんな軽いくらしができたらいんじゃない？」が、少しでも伝わったら嬉しいです。

この経験を生かし、この先の制作を頑張っていきたいと思えます。

八木山から、まちなかへ

1階ギャラリー改装前の8月9日(土)、荒井富雄特任講師の指揮のもと「八木山コーラス」によるロビーコンサートが行なわれました。「八木山コーラス」は八木山地域の方ならどなたでも参加できる、元気で明るい母親グループ13名。NHK全国学校音楽コンクール課題曲であるアンジェラ・アキの「手紙」など7曲と、会場からのアンコールに応えプラス3曲を歌い上げました。代表の今野麻里さんの挨拶で「荒井先生の手にかかれば魔法にかかったように声がでてしまう」とあったように、あたたかい母の歌声が来場者40名の心を優しく包み込みました。



ロビーコンサートの様子

■4Fホール オープンカレッジ(市民公開講座)

9/19(金)

戦争の中の太宰 治 ～『惜別』の世界～

共通教育センター 人間科学部

講師 高橋 秀太郎
たかはし しゅうたろう



太宰作品の中から、「走れメロス」(昭和15年発表)と『惜別』(昭和20年発表)を取り上げ、昭和12年から始まった日中戦争以降に発表された作品の執筆背景や創作方法について解説しました。戦争という事態から逃げることなく、その中でこそ自身の文学を追い求めた太宰が、そもそもこ

の時期に何を感じていたのかについて、そしてその思いをどのように小説に反映させているのかについて、昭和19年の仙台での資料調査の様子も交えながら説明しました。



オープンカレッジの様子

高等学校との連携 — 高大接続研究事業

■白石工業高等学校との連携講座が開講されました

教務部長 小林 正樹
こばやし まさき

本学と白石工業高等学校の連携講座が開始されました。本学教員が白石工業高校に赴き、各専門分野における基礎から先端技術までを高校生にわかりやすく講義します。本講座は、地域に根ざした両者の連携による、応用力のある工業人の育成、キャリア教育、専門分野への興味の高揚を

目的としています。5月から9月まで3年生対象に講座が開かれました。夏季集中講義として8月に本学にて実施された実習・演習を取り入れた講義を含め、計5回の講義が行なわれ、26名の生徒が修了しました。10月からは2年生を対象とした講座が始まっています。来年9月までの1年間の講座を修了すると、高校での単位認定とともに、本学へ進学した際には本学でも単位認定されます。

(知能エレクトロニクス学科 教授)



開講式の講義 (2008年5月)



夏季集中講義 (2008年8月)



修了式 (2008年9月)

大学の講座を受講して

宮城県白石工業高等学校
電気科3年 堀 隆貴
ほり たかき



私は、今年の春から高大接続研究事業の一環として様々な講座を受講してきました。なかでも夏季休業中に受講した「簡単に作れるダイヤモンド」についての実験は特に印

象に残っています。短時間でダイヤモンドが作れることに感動を覚え、私も進学が決定したら専門的に学んでみたいと思いました。他にも、デザインとは外観だけではなく機能性も考慮しなければならないことや、知能ロボットについて、人間関係など幅広い分野について学びました。高大接続研究事業を通して、私は東北工業大学の知能エレクトロニクス学科を受験しようと考えてようになりました。今回は、私たちにこのような学ぶ機会を与えていただきありがとうございました。



■平成20年度出前授業

出前授業は年間約50校で行なわれています。その中の1テーマを紹介します。

身体障害者とスポーツ

—車椅子バスケットボールの世界—

安全安心生活デザイン学科
准教授 吉田 毅
よしだ たけし



去る7月31日(木)、亘理高校の学習合宿(於青根温泉「流辿」)において出前授業を実施しました。2・3年生16名に加え先生方も熱心に聞いて下さいました。

まず、歴史的な話題として、19世紀に英国で誕生した近代スポーツが、元来若い男性の健常者を基準として創られたものであり障害者に適さないのは当然であること、そのため後に、人間にスポーツを合わせるといった発想の下、障害者の基準で様々なスポーツ(adapted sport)が創られ

発展してきたことを紹介しました。その上で、障害者スポーツの花形である車椅子バスケットボール界の内実に話題を移し、過酷な障害を克服し活躍するに至った選手のことや、この世界が今では健常者の参加も増え、バリアフリー・共生社会のモデルのごとき様相を呈しつつあることなどに言及しました。



国際交流シリーズ ⑳

■泰日工業大学との学術・学生交流

国際交流委員会副委員長 宮曾根 美香
みやそね みか

昨年10月、タイ国の泰日工業大学と本学との間で学術交流・協力協定が結ばれ、このたび8月26日(火)から30日(土)までバンコク市にある泰日工業大学を訪問し、交流を深めました。本学からは沢田康次学長、今野弘副学長、伏見利博事務局長、講師の教員などと共に、8名の学生が参加しました。滞在期間中、『モノづくりコンセプトと泰日工業大学、東北工業大学間の協力』というテーマで、シンポジウムが開催されました。大勢の教職員の方々および学生の前で、沢田学長が基調講演を、さらに藤田豊己准教授、猿渡学准教授、宮曾根、Dr. Datchakornの4人の講師

が講演を行ない、活発な意見交換がなされました。学生同士の交流も密で、将来の交流のあり方についても話し合われました。泰日工業大学の教職員、学生の皆さんの歓待を受け、今回の2大学間の交流は今後続く充実した内容だったと言えます。

(経営コミュニケーション学科 教授)



泰日工業大学の先生方と

シンポジウムに参加して



建設システム工学科3年 柏崎 圭太
かしわざきけいた

泰日工業大学のシンポジウムに参加するためにタイのバンコクに行ってきました。バンコクは人口800万人を超える国際都市で、活気があり、とても魅力的なところで、中心部は仙台以上に発展しています。細い路地に入ると乱雑に屋台が立ち並び、タイ本来の生活を垣間見ることが出来ます。

タイ人は、とても優しく熱心な仏教徒が多く礼儀正しいです。今回、私たちが案内してくれた泰日工業大学の学生たちは、とても気さくで親切だという印象を受けました。

一番驚いたことは、私たち以上に日本の文化に関心があり、私たちも知らないようなことも知っていて、日本人として複雑な気持ちになりました。

このような経験をできて本当に良かったと思います。機会があればもう一度行ってみたいです。



歓迎会でのお礼の挨拶

■「国連大学グローバルセミナー 第7回東北セッション」に参加して

建築学科2年 三浦 綾子
みうら あやこ



9月20日(土)から4日間、国連大学グローバルセミナー第7回東北セッションに参加しました。全国から集った参加者は8つのグループに分けられ、講義を聞いて、英語で

討論を重ね、プレゼンテーションを行ないました。

各講義は持続可能な開発のための教育についてのものでした。特に興味深かったのは、結城登美雄氏の「地域で支え合う食と農」という講義でした。農村では、時給換算260円以下になることもあるそうで、値段が高いと思っていた米生産の背景にショックを受けました。グループ討論は、それぞれの意見を主張し合い、とても有意義なものでした。

このセミナーを通して、現実を知ること、主張することの重要性を学びました。このように貴重な機会をいただき、ありがたく思います。



グループ討論の様子



閉会式にて



フィールドトリップにて

◎ 学外で学ぶ ◎

■ インターンシップに参加して



自分を知る

建築学科 3年

小野寺 恵

おののち めぐみ

(研修先：株式会社 チョウエイハンズ)

2週間という短い期間でしたが、多くのことを学び、体験しました。

私がお世話になった部署は店舗の内装設計・デザインを行なう所でした。実習中には、自分で設計・デザインをする課題が出され、初めて使うソフトばかりで操作法がわからず苦戦しましたが、最終日にはそれを無事にプレゼンテーションすることができました。

インターンシップに参加したことで、自分が本当にやりたいことの方角性を知ることができました。実際にその仕事を体験することで、自分には何が向いているのか、何をやりたいのかなど、自分自身を知るきっかけにもなりました。この研修で学んだ多くのことを今後の大学生活や進路選択に役立てていきたいです。



研修期間中の作品

インターンシップの年間スケジュール

時期	スケジュール
5月	インターンシップ説明会
6月上旬	参加登録票提出
6月中旬～下旬	マッチング
7月初旬	参加意志確認
7月下旬	事前研修
8月～9月中旬	インターンシップ実施
9月下旬	事後研修
10月初旬	報告・発表会
1月下旬	単位認定申請
3月下旬	単位取得

※詳細はキャリアサポート課へ

平成20年度 インターンシップ参加人数

学 科	人数
知能エレクトロニクス学科	3名
情報通信工学科	22名
建築学科	17名
建設システム工学科	7名
デザイン工学科	43名
環境情報工学科	3名
経営コミュニケーション学科	1名
合 計	96名



報告・発表会 (2008年10月)

■ 教育実習を終えて

平成20年度の教育実習は、36校へ48名の参加でした。その中の1名の声をお届けします。



教えられる仕事

建築学科 4年

八戸 美枝

はちのへ みえ

(実習先：仙台工業高校)

私は5月、母校である仙台工業高等学校で約2週間教育実習を行ないました。毎日が学ぶことの連続でとても充実し、自分の成長を顕著に感じる事が出来ました。

この実習で、教えることの難しさを知り、授業の進め方など教科担当の先生にご指導いただきながら試行錯誤しました。また、こうした先生からの指導だけではなく、生徒たちから学ぶこともとても多く、「教壇に立つこと」の責任の重さを痛感しました。

今回の教育実習を通し、教員の仕事を肌で感じると共に、2週間という短い期間でしたが「先生」という立場で初めて「生徒」ができたことを嬉しく思いました。また、これから社会人としてこの経験を生かし仕事に取り組んでいきたいと思えます。



就職 現状報告

就職部長 古賀 秀昭
こが ひであき

今年も11月末を迎え、残すところ1か月となりました。4年生の皆さんの就職活動の結果は自分で満足行くものになったでしょうか。

昨年度の本学の就職率（就職者数／〔卒業生数－進学者数〕×100）は92.3%でした。読売ウィークリー（8月3日号）によれば、300人以上の卒業者を輩出した全国268大学中、本学の就職率は35位で、東北地方の工科大学では2位となりました。このように本学の就職率は依然として高水準を保っています。今年10月末の就職内定状況は右表のとおりです。全学的には内定率、また求人状況ともに今年度当初から去年同期を上回る状況となっております。しかし、求人状況の伸び率は今年度当初の前年度同期比の伸びに比べれば、ここに来て鈍化してきています（その要因はアメリカの経済状況の悪化と言われています）。だからと言って、まだ、内定をもらっていない皆さんも悲観することはありません。鈍化しているとは言っても求人は続いていますので、あきらめることなく、キャリアサポート課や学科の就職委員、研修担当教員に気軽に相談してください。

3年生はいよいよこれから就職活動の本番です。今後の就職支援行事予定を表に示しておきましたので、積極的にこれらの行事に参加してよい就職ができるよう期待しています。

（環境情報工学科 教授）

○就職内定状況(20年10月29日現在) (単位:人)

項目	電子	情通	建築	建シス	デザイン	環境	合計
在籍者数	145	148	167	100	92	88	740
就職希望数	137	140	161	98	85	79	700
就職内定数	113	120	121	80	50	56	540
内定率(%)	82.5	85.7	75.2	81.6	58.8	70.9	77.1
前年度同期内定率(%)	85.2	86.0	71.4	63.1	65.0	73.2	75.3

○求人数(20年10月29日現在) (単位:人)

項目	学科別求人数						合計 (延べ数)
	電子	情通	建築	建シス	デザイン	環境	
求人数	2,966	2,571	2,495	2,409	1,952	2,069	14,462
前年度同期	2,394	1,908	1,801	1,674	1,349	1,456	10,582
差異	572	663	694	735	603	613	3,880
前年度同期比率(%)	123.9	134.7	138.5	143.9	144.7	142.1	136.7

○今後の主な就職支援行事

年	月	日(曜)	就職支援行事	対象学年
H20	12	初旬～中旬	・業界研究会	3年生
		初旬	・就職ガイダンス (進路調査書記入説明, 就職模擬テスト, 就職企業説明会案内)	3年生
		6日(土)	・就職模擬テスト (就職適性検査, 就職実践模試, エントリーシート対策)	3年生
		初旬～中旬	・就職模擬面接	3年生
H21	2	2日(月)・3日(火)	・就職企業説明会	3年生
	3	初旬	・公務員・民間就職試験対策講座(6日間)	2・3年生



環境情報工学科 江成・小浜 研究室

生物と水環境, 植物を利用した水質浄化

本研究室は2研究室合同で運営しており、4年生が13名在籍しています。

「水環境保全」を大テーマとしています。なかでも着目している「植生浄化法」は、植物が自然エネルギー（太陽光）を利用し、二酸化炭素や水中の栄養塩を吸収して生長すること、茎や根の部分に存在する微生物が水・土中の汚濁物質の除去に関与していることを利用する方法です。

卒業研修では水質調査や、植物による汚濁物質除去能の評価を行ない、より効率的な水質浄化システムを構築することを主なテーマとしています。近年は浄化対象を伊豆沼・内沼周辺の渡り鳥が飛来する池水や、埋立処分場浸出水などとしているため現地調査を行なうことが多く、採取した試料を即日分析しなければならないことが大変な点です。

他に、伊豆沼・内沼におけるオオクチバスの駆除活動に参加し、従来の駆除方法の評価やより効率的な駆除方法の検討を行なうこともテーマとしています。大学外の多くの方々にご協力をいただき、叱咤激励されながら取り組んでいます。

研究活動以外にも、大学祭における学科企画の一環として、「環境と食の安全」にこだわった模擬店を出店しました。材料の調達手配、収穫体験、調理法の工夫、生産者への取材等を行ない、その活動内容を店頭で発表しました。

研究を進めながらの準備はとても大変ですが、学生・教員共々、体力と知力をフル稼働させ、充実した日々を過ごしています。



オオクチバスを捕獲



水質調査中

先生のホンネ(2)

教室では語れない学生へ向けた先生のホンネを聞きました。

悩むことが日課です

共通教育センター 教職課程部

教授 小川 和久
おがわ かずひさ



研究室での様子

私はいつも悩んでいます。授業をどうするか、実験をどう進めるか、論文をどう書くか、それから息子の学校のこと、年老いた親のこと、自分の健康のこと…とにかく毎日何かで悩んでいます。

人の性格に良い悪いはありません。見方を変えればマイナスがプラスに。例えば、頑固な人は芯の強い人です。ならば悩み多き人は思慮深い人だと、自分に言い聞かせています。

最近、悩み多き人生も悪くないなと思うようになりました。悩んだ分だけ知恵がつきますし、出口が見えた時の爽快感が何とも言えません。悩みを喜びに変換する思考回路をいっしょに開発してみませんか？



心理学実験中

学生時代に学ぶこと

建設システム工学科

教授 吉川 謙造
よしかわ けんぞう

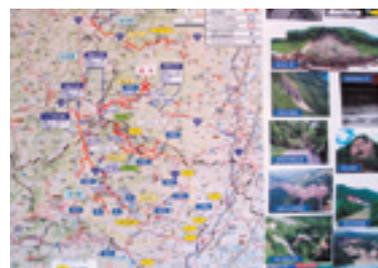


吉川研究室の学生と

実社会で求められるのは、「何をするか」ではなく、「何のためにするのか」という明確な目的に基づく行動であり、突発事項に対応する応用能力です。

現場が計画通り行かない時に解決方法を考え、軌道修正するためには、「指示待ち人間」「マニュアル人間」は不要です。どんなに科学が発達しても人間は必要なのです。

そして大学は「問題を見つけ出し、解決方法を考える」ことを学ぶ場です。実社会では何を知っているか（テストの点）ではなく、何をやったかという実績の総和（面積）と人格で評価されます。だから、できないのを人のせいにははいけません。



吉川教授が専門としている研究の地震災害マップ

やってみないとわからない

情報通信工学科

准教授 松田 勝敬
まつだ まさひろ



実験中

インターネットはとても便利で、一度使い始めたら二度と手放せない魅力を持っています。次から次へと応用技術が開発され、世の中に出回っています。その反面個人情報漏えいなどにより、今まで無かったような決定的な損害を被る可能性が出てきてしまいました。

私はインターネットを活用して、もっと生活が便利にならないか研究・開発をしています。でも、もしかしたら次のパンドラの箱を開けようとしているのかもしれない。それでも私はやめません。箱を開けた人は、最後に残っていた物も見つけられると思うから。



解析中

ウェルネスセンターから

ウェルネスセンターの取り組み ～ピアサポーター制度～

カウンセラー 上西 創
かみにし はじめ

本学ウェルネスセンター・カウンセリングルームが現在力を入れているのがピアサポーター制度です。誕生して3年目を迎えています。参加してくれている学生さんのがんばりでその活動を徐々に拡大してきています。ピアサポーター制度は学生同士の支援を目的としたものですが、居場所を見つけれずにいる学生さんにとっては、友達作りの場としても大きな役割を果たしているようです。ただ初めは援助される側だった学生さんが、元気になるにつれ、今度は自分が助ける側にまわりたいとピアサポーターに参加してくれるケースも出てきました。これは、本当に嬉しいことです。

様々な活動を通して仲間として成長していくピアサポーターの姿は、私たちスタッフにとっても大きな誇りです。より多くの学生さんが参加してくれることを願ってやみません。



大学祭にてグループワーク中



クリスマス会での交流風景

一緒に活動してみませんか？

みなさんこんにちは。みなさんは本学にピアサポーター制度というものが存在することを知っていますか？

ピアサポーターは、学生の心の悩みについて学生同士だからこそできる方法で援助し、解決の第一歩を踏み出すための支援をしています。多くの学生は悩みを抱えたまま生活を続け、放置しておくとう孤独や自信喪失に陥ってしまうケースがあります。そのような場合、学生のみが行なえる心の支援部隊として、ピアサポーターは存在しています。

私たちのほとんどは「誰かのために～」という熱い心をもっています。相手の意見を尊重し、心の鏡役となって援助をしていけるよう努力を重ねています。その一環として夏休みを利用し、一泊研修を行なってきました。その中では、グ



調べたことを発表するピアサポーター

ープワーク（実践形式）を通して、悩みを抱えている人の話の聞き方や言葉のかけ方などを学び、援助の為のスキルアップを図ってきました。

今後の私たちの目標としては、高い確率で発生すると言われている宮城県沖地震に備え、被災者の心の救援部隊として多くの人を援助していきたいと考えています。

興味を抱いてくれた皆さん！私たちピアサポーターは、あなたの力を必要としています。

一緒に活動してみませんか？



研修合宿風景：人との絆や人間関係の複雑さをヒモで体験

人間喜怒哀楽のすゝめ

- ☆ 大切な人が悩みを打ち明けてきた時
親身に聞いてあげよう。相手の悩みの突破口を共に見つけるんだ。
- ☆ 大切な人が怒っている時
自分の損となる部分がどんどん出てくる。落ち着こう！もったいないよ。
- ☆ 大切な人の満面の笑みを見た時
自分も満面の笑みで応えてあげよう。笑顔は皆を幸せにするよ。
- ☆ 大切な人が喜んでいる時
気分爽快、元気ハツラツ。明日も違う楽しさ見つけようよ。
- ☆ 大切な人の涙を見た時
言葉では表現できない感情の塊が「涙」となります。温かい言葉で崩してあげようよ。

(ピアサポーターリーダー)

プロフィール

建築学科

渡邊 浩文 教授

わたなべ ひろのり



「ご多忙な若手教授ご紹介」

渡邊浩文教授は、埼玉県出身。昭和40年のお生まれです。早稲田大学で建築を学び、博士号を取得後、同大学助手と

してご研究に従事。平成10年10月本学建築学科に講師として着任されました。主に建築・都市環境工学に関する講義を担当され、研究面では、都市のヒートアイランド現象の観測と分析、都市施設整備と地震防災に関する研究などに取り組みられ、多くの論文を執筆されています。学内では、情報処理技術研究所の研究部長や、教務部次長としてご活躍されています。学外では日本建築学会の都市環境・都市設備運営委員会主査、空気調和・衛生工学会東北支部の副支部長を兼務されるなど、多忙な毎日をご過ごされ、今後のご活躍が大いに期待されるところであります。

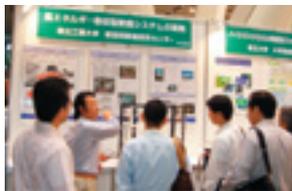
建築学科 助手 鈴木 博司
すずき ひろし

「イノベーションジャパン2008 ～大学見本市～」 出展報告

新技術創造研究センター 助教 野澤 壽一
のざわ としかず

去る9月16日(火)～18日(木)、東京有楽町国際フォーラムを会場に国内最大規模の研究成果展示会『イノベーションジャパン2008～大学見本市～』が開催されました。全国の国公立大学より500件を超える申込みがあり、審査を経た約300件の研究成果が展示されました。3日間で4万5千人を上回る企業関係者の来場がありました。本学は、東北地方の私立大学として唯一採択され、『バーチャルカメレオン～両眼に任意の方向の独立した視野を

与える装置の開発～』(知能エレクトロニクス学科水野文雄講師)と『風エネルギー吸収型制風システムの開発』(新技術創造研究センター野澤)の研究成果を展示しました。両ブース共に、多数の企業よりの商談・問合せがありました。特に『バーチャルカメレオン』は、日本テレビ、テレビ東京そして月刊アスキーの取材も入り、本学の研究成果の創造性を十分発信できた有意義な展示会となりました。



地域との交流を図る一般開放

附属図書館長町分館

長町分館では、夏季休業中の8月に図書館の一般開放を行ない、高校生や町内会の方々をはじめとするたくさんの地域住民の皆様にご利用いただきました。

2回目の取り組みとなる今回は、建設システム工学科松山正将教授、並びに環境測量研究室のご協力により、「地域再発見コーナー」を設けました。

「地元のことについて改めて関心を持つことができた」など好評をいただき、今後も継続的に地域交流の場として、企画の充実を図っていきたく考えています。



AED 講習会が行なわれました

7月18日(金)学生を対象に、また9月24日(水)教職員を対象にAED講習会が行なわれました。太白消防署の救命指導員から、心肺蘇生法やAEDの使い方について指導を受け、参加者は真剣な表情で実践に取り組んでいました。



AED 設置場所

- 八木山キャンパス
1号館1F totech LOUNGE内
6号館4F階段前
- 長町キャンパス
3号館1F 保健室前
体育館玄関ホール内



仙台七夕飾り「サンモール賞」受賞！

デザイン工学科2年 木村 恵美
きむら めぐみ

1, 2年の有志で仙台七夕祭の飾りを製作しました。最初は全長4mもある飾りを5つも作れるのか不安でしたが、2か月間は毎日集まり頑張った結果、無事完成し「サンモール賞」を受賞することができました。構成、色彩、材料等を考え、これだけ大きなものを作り上げるのは1人ではできず、共同作業の大切さを実感することができました。来年はどんな七夕飾りができるのか楽しみです。



((((キャンパス短信))))

- 岩崎俊一理事長が9月末、北京清華大学、蘭州大学および上海復旦大学で講演されました。
- 9/27(土)に広瀬川1万人プロジェクト(一斉清掃)が行なわれ、環境情報工学科より99名の学生と教職員が参加しました。
- 9/30(火)に行なわれた『産学官連携フェア2008みやぎ』に、知能エレクトロニクス学科及び情報通信工学科より4ブースを出展しました。

表紙写真：ダンスコンテスト(工大祭)

撮影・広報室 高橋 信恵